

令和7年度宮崎県普及指導活動外部評価会の結果報告資料

普及センター名 南那珂農業改良普及センター

プロジェクト名 地域農業の担い手確保と技術・経営管理能力向上による人材育成

項目	評価・意見・提案
計画の評価	<p>○農業従事者が減少する中、課題の設定が適切である。</p> <p>○農業者や関係機関との連携のもと計画を作成し、品目ごとに生産振興及び担い手の確保に向けて計画を策定している。</p> <p>○担い手確保への対策として、技術面だけでなく、経営管理能力の向上をテーマに据えている点が評価できる。</p> <p>○産地サポート体制を強化し、新規を含めた就農者の経営安定・向上を図ることは、地域農業の持続性を高めるために適切な施策である。</p> <p>目標に関して、営農継続率100％を維持していることは評価できるが、営農継続率のみを目標とせず、経営安定の目途・目安を定め、個々の経営者の経営目標の達成率などを目標とする方が良いのではないか。</p>
活動の評価	<p>○計画達成に向けた活動内容は、明確であると思われる。また、普及活動としても適切である。</p> <p>○農業バイトアプリの活用は、労働力確保の手段として、数値実績として表われているのが良い。</p> <p>○自治体、JA、NOSAIなど、関係機関との連携のもと、新たな担い手の個別巡回指導や、経営の発展段階ごとの研修会の開催等に取り組むとともに、就農後の営農継続に向けて各種の支援を行っている。</p> <p>○新規就農者、認定農業者に分けた上で、関係機関と連携した相談～就農～定着までの一貫した支援体制の構築は評価できる。</p> <p>○連絡会議の開催や、実地見学・体験、日南・串間間の連携による研修会など、効率的な活動を行っている。また、農業者の成長ステージに合わせた研修・指導も行われている。</p>
成果の評価	<p>○目標数字が前倒しで達成されており、全体的な波及も期待できる。</p> <p>○新規就農者の確保と青年農業者の経営能力向上は、当地域のみではなく全県的な課題であり、この積極的な取り組みは他の地域への波及も期待できる。</p> <p>○プロジェクト全体の到達目標の達成状況は妥当である。</p> <p>○いずれも設定された目標を上回っている。労働力確保への取り組みの進捗・浸透によっては地域全体への波及も期待できる。</p>

総合評価・その他	<p>○近年は天候不順や資材高騰等の影響で新規就農者の離農が急増している中、南那珂地区の営農継続率100%の成果は評価できる。</p> <p>決算データの累積分析による経営状況の早期把握に着手という取り組みが前段の良い結果に繋がったものとする。</p> <p>○普及課題の設定が明確であり、また、生産基盤の強化に直結するため、今後も活動強化が望まれる。</p> <p>○経営改善に向けた各分野の専門家をコーディネートする取組は、生産者の方々にとって必要であり、地域への波及を期待する。</p> <p>○本プロジェクトでは、関係機関や農業者との連携にもとづく計画のもと、具体的な成果も挙げており評価できる。</p> <p>○将来を見据えたモデル的な取り組みと考える。一方で、国内のあらゆる産業で人材不足が課題となる中、労働力確保について先行きが見通せない状況である。労働力確保及び労働者の定着を図るためには、多様な手段によるアプローチや、一層の工夫が必要である。</p>
普及活動等への対応方針	<p>農業者の高齢化、後継者不足による担い手減少が大きな課題であるため、今後も後継者や新規参入者の呼び込みなどにより担い手確保の取組を充実させていくとともに、これまでの活動で就農支援の道筋が見えてきた施設野菜類に加え、当地域が県内有数の産地である、かんきつや花きの新規就農者確保体制の確立にも力を入れていきます。</p> <p>また、多くの就農者が当地域に定着していけるよう、関係機関と連携しながら、専門家派遣事業等を活用した農業経営研修の実施や相談会の開催などにより、栽培技術だけでなく、個々の農業経営改善計画の目標の達成に向け、経営管理面の支援をさらに強化していきます。</p> <p>さらに、あらゆる分野で人材不足となっている状況であることを充分ふまえ、農業分野による労働力の確保、定着が進んでいくよう、多様な労働力確保手段の提供や活用を促しながら、地域での労働力の定着を目指した活動を進めていきます。</p>

普及センター名 南那珂農業改良普及センター

プロジェクト名 産地ビジョンに基づいた食用かんしょ産地の維持

項目	評価・意見・提案
計画の評価	<p>○サツマイモ基腐病が発生し地域農業への影響が懸念されている状況下で、適切な取組と考える。</p> <p>○農業者や関係機関との連携のもと計画を作成し、品目ごとに生産振興及び担い手の確保に向けて計画を策定している。</p> <p>○食用かんしょの産地維持のため継続した取り組みが必要である。</p> <p>○病害への対応として適切な計画・課題が設定されている。また、地域内にとどまらず様々な機関と連携し、防除技術の確立と抵抗品種の導入に取り組んでいる。</p>
活動の評価	<p>○病害対策や複合経営に対するサポートを、丁寧に行っている。</p> <p>○農業者やJA、研究機関との連携のもと、防除技術の確立や抵抗性品種の導入、座談会の開催などを積極的かつ丁寧に進め、サツマイモ基腐病等で苦勞する食用かんしょの生産振興に着実に取り組んでいる。</p> <p>○病害の発生するほ場間差の究明や抵抗性品種の安定生産に向けた実証・検討など、十分な連携が取れている。</p> <p>○ドローン防除の導入や支援による防除技術の浸透、座談会等による抵抗品種の栽培手法の習得、青年農業者に対する勉強会や巡回指導などの活動が適切になされている。活動においては、関係機関や関係企業とも連携し適切に対応している。</p>
成果の評価	<p>○地域の自発的な取り組みで栽培技術の向上を図るとともに、座談会や巡回指導など地道に行うことは、地域全体、及び他の地域への波及も期待できる。</p> <p>○令和6年度のサツマイモ基腐病被害率が1割となったことは評価できる。平均反収についても順調に増加している。</p>
総合評価・その他	<p>○本プロジェクトでは、関係機関や農業者との連携にもとづく計画のもと、具体的な成果も挙げており、評価できる。今後も関係機関との連携のもと、活動を進めていくことを期待する。</p> <p>○現時点で取り組めることは網羅している。しかし、短期での解決は望めない課題であるため長期的な取組として継続してほしい。</p> <p>○大きな被害をもたらした病害へ適切に対応し、地域の基幹産業を維持するため適切に活動している。</p>

<b>普及活動等への対応方針</b>	<p>サツマイモ基腐病が蔓延し、従来のかんしょ生産が大変困難な状況となる中、地域の基幹品目の維持に向け、防除技術の確立や抵抗性品種の導入等の支援に取り組んできました。</p> <p>今後は、さらに生産者、関係機関・団体との連携をより一層強化し、総合的な防除対策を推進しながら、かんしょの安定収量確保に向けた取組を進めていきます。</p> <p>また、さらなる病害発生リスクの低減に向けた情報共有の強化や抵抗性品種を活用した生産体制を構築するとともに、総合防除と複合経営品目を取り入れた経営リスク管理等を推進し、かんしょ生産農家の経営安定に向けた取組を継続していきます。</p>
--------------------	--

普及センター名 北諸県農業改良普及センター  
プロジェクト名 北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり

項目	評価・意見・提案
計画の評価	<p>○販売環境の厳しさを受け、繁殖牛農家、頭数も減少傾向にあり、産地維持に向けた計画である。</p> <p>○農業者や関係機関との連携のもと計画を作成し、品目ごとに生産振興、並びに担い手の確保に向けて計画を策定している。</p> <p>○肉用牛の産地を持続させていくために欠かせないプロジェクトである。一方で、高齢化や担い手不足への対応は性急に行う必要があるため、新規参入を促す取り組みにもっと力を入れる必要がある。</p> <p>○農家数の減少を止めることは困難であるが、飼養頭数は維持していく必要がある。他地域よりも高い受胎日数の短縮や事故率低減、管理技術の向上を企図した経営者の育成は、適切な課題設定であるが、今後も増加していくであろう廃業者の出口対策を講じる必要があるのではないか。</p>
活動の評価	<p>○取組目標達成に向けた明確な取組みがなされている。</p> <p>○繁殖成績・優良農家事例集を作成・配布する取組は、生産者にとって有益な情報の波及につながるため、評価できる。</p> <p>○農業者やJA、家保、NOSAIなど関係者の連携のもと、飼養管理や疾病対策など具体的に進めるとともに、農業振興公社などとの連携により経営継承に向けて取り組んでいる。</p> <p>○飼料の給与指導や獣医との巡回指導による栄養管理の徹底、ICTの活用による発情確認など、効果的な活動を行っている。</p>
成果の評価	<p>○肉用牛の飼養管理技術の向上と生産性・収益性の向上を図り、事業継承を推進することは、当地域のみではなく全県的な課題であり、地域全体、及び他の地域への波及も期待できる。</p> <p>○人間ではなく、牛に関する目標設定もあり、達成困難な面もあるが、概ね目標とおりの進捗である。</p>
総合評価・その他	<p>○経営管理能力の高い経営者の育成については、もう1歩踏み込んだ活動が望まれる。外的要因も注視しながらJAと密に連携しながら引き続き普及活動を実施してほしい。</p> <p>○本プロジェクトでは、関係機関や農業者との連携にもとづく計画のもと、具体的な成果も挙げており、評価できる。今後も関係機関との連携のもと、活動を進めていくことを期待する。</p> <p>畜産の様々な技術的要因をピックアップするとともに、これら技術と収益性との関連など、フローチャートなどで表すと、今後の取り組みがより明確になるとともに、農業者自身にも分かりやすい資料となる。</p> <p>○この分野においては、スマート技術を活用できる可能性が大きいと考える。大学や研究機関と協力するなどし、農家の負担軽減につながる方法を模索してほしい。</p>

<b>普及活動等への対応方針</b>	<p>肉用牛繁殖農家の減少に伴い子牛供給産地力の低下が懸念されることから、規模拡大や新たな担い手の確保及び農家支援組織の拡充、スマート機器の活用等による生産基盤の強化が重要となっています。このため、令和８年度からスタートする第八次宮崎県農業・農村振興長期計画（後期計画）の北諸県地域基本計画においても重点施策の一つとして取り組んでいきます。</p> <p>繁殖成績の向上については、重点指導項目、農家支援方策を明確にし、市町、ＪＡ、NOSAIなどの関係機関と役割分担を行いながら効率的な農家支援が出来るように取り組んでいます。また、労力軽減や子牛の事故率低減及び繁殖成績の向上に繋がるようスマート機器の活用を進めていきます。</p> <p>ご意見にあります新規参入の確保については、新規就農希望者が、しっかりと畜産の技術を身につけて就農できるよう、大規模法人との研修体制を検討していきます。また、空き牛舎を活用した事業承継等の推進のために、離農農家情報の一元化や承継における課題整理を行い、スムーズな承継に必要な支援体制の整備と経営安定に向けた個別巡回や研修の拡充を関係機関とともに進めていきます。</p>
--------------------	---

普及センター名 北諸県農業改良普及センター

プロジェクト名 地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築

項目	評価・意見・提案
計画の評価	<p>○集落営農法人の先進地であるが、現時点での課題等が整理されており、目標設定も明確である。</p> <p>○農業者や関係機関との連携のもと計画を作成し、品目ごとに生産振興、並びに担い手の確保に向けて計画を策定している。</p> <p>○集落を単位として農業生産を行う組織そのものを育成するという考え方は、適切である。農地の安定的な利用、取引信用力の向上などのメリットを生かせる集落営農法人の育成を実施してほしい。</p> <p>○担い手が減少する中で集落営農法人の経営安定、強化を企図した計画は適切である。</p>
活動の評価	<p>○集落営農法人や関係機関の連携のもと、播種や施肥、防除等の体系を確認するとともに、収益性分析やマッチングアプリの活用等を行うなど、法人経営の基盤強化に向けて積極的に取り組んでいる。</p> <p>○地域の人口減少や高齢化による労働力不足を解決するためには、マッチングアプリの活用だけでなく、人材派遣会社などとの包括連携協定など、踏み込んだ対策が必要と考える。</p> <p>○「法人運営の土台作り」「法人経営基盤の強化」に関しては、活動の具体的な内容と効果の関連性が不明瞭であるが、協議会やグループワークで適切な支援が行われている。</p>
成果の評価	<p>○到達目標の数字を達成しており、大きな効果が表れている。</p> <p>○集落営農法人の経営基盤強化は、個別経営と並んで重要な課題であり、グループワーク等により合意形成を着実に図っていく積極的な取り組みは他の地域への波及も期待できる。</p> <p>○馬鈴薯の霜被害による減収の影響があるが、概ね目標とおりに進捗している。</p>
総合評価・その他	<p>○集落営農法人は産地の維持のために、今後、重要な立ち位置となる。集落営農法人の支援手法等を確立し他の地域へ波及を望む。</p> <p>○本プロジェクトでは、関係機関や農業者との連携にもとづく計画のもと、具体的な成果も挙げており、評価できる。</p> <p>○同プロジェクトの根幹的な部分に、地域の人口減少、高齢化という課題がある以上、農業分野だけでなく、地域の魅力をいかに高めるかが重要である。農政だけでなく、行政（他分野）などとも連携しつつ対策を行うことが重要である。</p>

<b>普及活動等への対応方針</b>	<p>集落営農法人は、管内の水田の重要な担い手ですが、労働力や担い手の確保が難しくなっていることから、農業大学校生等への求人活動による従業員の確保やマッチングアプリを活用した農繁期の雇用確保などの取組を支援し人材確保の体制整備に努めてきました。今後は、集落営農法人と他の農業法人が連携した農作業受委託システムの構築や、スマート農業技術の導入支援など、令和８年度からスタートする第八次宮崎県農業・農村振興長期計画（後期計画）の北諸県地域基本計画においても重点施策の一つとして取り組んでいきます。</p> <p>ご意見がありましたように、効率的な農作業や従業員の作業技術の伝承により労働力不足を解決していくため、作業手順の見える化等の踏み込んだ対策も講じていきます。</p>
--------------------	---



普及センター名 西諸県農業改良普及センター

プロジェクト名 持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレイヤーの確保・育成

項目	評価・意見・提案
計画の評価	<p>○農業を取り巻く環境の厳しさを受け、担い手が減少するなか、持続可能な農業生産に向けた明確な計画である。</p> <p>○農業者や関係機関との連携のもと計画を作成し、品目ごとに生産振興、並びに担い手の確保に向けて計画を策定している。</p> <p>○新規就農者支援、地域リーダーの育成など適切な計画を策定している。</p> <p>○新規就農者の確保は非常に困難な課題であるが、その他、新規就農者の定着やにしろサップへの支援、経営管理力向上のため、適切な計画、課題の設定となっている。</p>
活動の評価	<p>○4つの普及課題について、それぞれ会議、巡回指導が徹底され生産者に浸透している状況が見受けられる。</p> <p>○農業者や関係者の連携のもと、ヒアリングにより園地台帳の整理や産地ビジョンの見直し、新規就農者の講習会などを行うなど、アグリプレイヤーの確保に向けた経営改善・支援に取り組んでいる。</p> <p>○事前アンケートや全戸ヒアリングを実施するなど、丁寧に関わり普及活動を行っている。農業者との信頼関係構築の観点からも評価できる取組である。</p> <p>○新規就農者の定着への取り組みで、セミナーや個別巡回など手厚いサポートが行われている。学修会内容理解者率、研修内容実践検討者率は目標を達成しており、普及活動の成果と考える。</p> <p>○就農相談会やアグリベーシックセミナーなどの研修会や個別巡回指導など、適切な活動がなされている。また、J A等との連携も取られている。</p>
成果の評価	<p>○最終的に到達目標の達成が見込まれ、地域全体の波及も見込まれる。</p> <p>○新規就農者の確保・定着によりアグリプレイヤーを確保し、持続可能な農業生産を図ることは、当地域のみではなく全県的な課題であり、この積極的な取り組みは他の地域への波及も期待できる。</p> <p>○プロジェクト全体の到達は、概ね目標を達成している。</p>

<b>総合評価・その他</b>	<p>○各生産者に対して実施したアンケート調査は重要な取り組みの一つである。</p> <p>このような機会を与えることで、農業者がこれまで気づけなかった新たな問題点や強みを認識することができ、産地の維持に繋がるものとする。このように生産者の経営や個人情報に踏み込むことこそ普及指導員の役割である。今後も生産者と距離が近い普及指導員の活動に期待する。</p> <p>○本プロジェクトでは、関係機関や農業者との連携にもとづく計画のもと、具体的な成果も挙げており、評価できる。今後も関係機関との連携のもと、活動を進めていくことを期待する。</p> <p>○新規就農者の確保における取り組みで、ＪＡみやざきこばやしマンゴー部会員全員へ直接ヒアリングを行ったことは、普及指導員の方々だからできたことだと考える。今後も就農者に寄り添う取り組みを期待する。</p>
<b>普及活動等への対応方針</b>	<p>本プロジェクトでは、部会員全員の聞き取りによる園地台帳の整備を通して、令和１０年度を目標とした産地ビジョンの改訂を支援しました。当該ビジョンには第三者を含む新規就農者の確保が明記されており、令和８年４月からの受け入れに向けて、試行しているところです。</p> <p>また、就農５年未満の新規就農者から認定農業者等に対して、経営段階に応じたセミナーや個別面談を実施し、農業者の基礎知識の習得や経営管理能力の向上を図り、多様な担い手の経営発展を支援しています。</p> <p>今後は、マンゴーでの受け入れ体制の整備や新規就農者の定着を実現させることで、産地の維持を確実にするとともに、この取組が他品目の担い手確保へと展開できるよう取り組んでいきます。</p> <p>また、普及指導員と農業者との信頼関係を更に高め、個々の経営に寄り添った活動を行うとともに、市町村やＪＡなどの関係機関と連携して地域農業・農村のあるべき姿に向けて取り組んでいます。</p>

普及センター名 西諸県農業改良普及センター

プロジェクト名 にしもの畑地を活かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立

項目	評価・意見・提案
計画の評価	<p>○業務用・加工野菜等の情勢等厳しい中、収益性の高さに注目した点が評価できる。</p> <p>○農業者や関係機関との連携のもと計画を作成し、品目ごとに生産振興、並びに担い手の確保に向けて計画を策定している。</p> <p>○収益性の高い農作物を生産することで、安定した農業経営を目指す計画であり、モデル的な取り組みになる。</p> <p>○地域の実情を踏まえた適切な課題設定がなされている。</p>
活動の評価	<p>○普及課題に向けたそれぞれの取り組みは、関係機関と連携のもと、効率的な活動を行っている。</p> <p>○農地集約の研修会での、拡大地図による現状の「見える化」は、認識を地域で共有できるため、適切な取組である。</p> <p>○農業者やJAなど関係の連携のもと、ほうれんそうのべと病及び黄化対策、サツマイモ基腐病の調査を地道に進め、各種の研修会により農業者の防除意識の向上を図るなど、加工・業務用野菜の生産振興に着実に取り組んでいる。</p> <p>○秋冬期の加工・業務用野菜の安定生産については、取り組み内容と成果の関連性が分かりにくいのが、講習会や実地調査・研修会に取り組んでいる。</p>
成果の評価	<p>○普及活動として、地域の自発的な取り組みを促すことに加え、研修会の実施により栽培技術の向上を図っている。またほうれんそうの栽培面積は目標を上回っており、この普及活動は当該地域だけでなく他の地域への波及も期待できる。</p> <p>○管内ＪＡのさといもの栽培面積が、主に高齢化を原因として減少している一方で、法人の栽培面積は増加している。このため、法人との連携体制を強化する取組は評価できる。</p> <p>○概ね目標を上回る進捗となっている。</p>
総合評価・その他	<p>○普及計画にもある通り、加工野菜は今後需要が高まると想定されるため、生産、加工、販売を一貫して行うような連携体制を期待する。</p> <p>○本プロジェクトでは、関係機関や農業者との連携にもとづく計画のもと、具体的な成果も挙げており、評価できる。今後も関係機関との連携のもと、活動を進めていくことを期待する。</p> <p>○農作物の価値を高めるという方向性は今後、ますます重要になると考える。引き続き、加工業者との関係性構築を普及センターの方でも取り組んで組むとよい。</p>

<b>普及活動等への対応方針</b>	<p>本プロジェクトでは、加工・業務用野菜のほうれんそうの安定生産技術の指導、かんしょの健全苗生産のための研修会の開催、地域をけん引する露地野菜法人の課題解決を図るための意見交換会の開催などの活動を行っています。</p> <p>需要の高い加工・業務用野菜の安定生産については、天候に左右されやすく複数年の検証が必要であることから、引き続き現地調査や栽培実証を行い生産の安定化を目指していきます。</p> <p>また、露地野菜を主体とする生産法人は、ますます面積を拡大する傾向にあることから、法人同士の交流や実需者、関係機関など多様な関係者との連携をより一層高め、生産効率の向上や持続的生産が可能な利益確保に向けた課題解決を支援していきます。</p> <p>さらに、畑地かんがい施設の活用や、かんしょ苗生産の技術指導、さといもの種いも生産原価試算の検証を行い、西諸県地域の特産であるいも類種苗の生産体制の再構築を図っていきます。</p> <p>これらを総合的に実施することで、加工・業務用野菜産地の確立を目指していきます。</p>
--------------------	--